一身田の新聞
発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和

地域懇談会　代表8名が市長に直接要望
寺内町まつり3年ぶりに開催　結婚パレードも開催
みんなの広場　高田本山をもっと知ろう！

八回目の地域懇談会
地域代表者が直接市長に要望

一身田地区では8回目（津市全域では270回）となる市長肝いりの「地域懇談会」が8月19日一身田公民館で行われた。地域を代表して自治会連合会長の岡野氏、地区社会福祉協議会長の望木氏、一小PTA会長の小林氏、交通安全推進協議会長の西山氏、商工振興会長の中川氏、寺内町整備委員会長の中西氏、老人クラブ連合会長の鈴木氏、体育振興会理事長の村田氏（代理　福田氏）の8人が登壇し、それぞれの団体が抱える課題点を直接市長に要望した。以下その内容を報告し、地域住民のアイデアや意見を求め、問題解決に向けて一歩でも前進させたい。

安心で安全な美しい街を目指して

一身田地区自治会連合会　会長　岡野勇治

○小学校校庭トイレに災害用トイレの併設を！

一身田小学校校庭トイレは旧式の男女共用トイレで、かねてよりPTAから改善のお願いをして来ましたが校内トイレ優先により未だ実現に至っておりません。校庭トイレは児童の利用だけでなく、町内のスポーツ団体等の利用も多く、又、小学校は地域避難所として指定されており、この際、災害用マンホールトイレ5基から10基位を持ち合わせた校庭トイレとして改善できないか提案致しました。

○公民館郵便局避難架け橋の継続利用について

来年8月は新郵便局が完成しますが旧郵便局敷地の跡地売却の問題が残っています。日本郵便には架け橋の利用に支障を来すような事が無いよう、継続利用の申し入れをすることとしていますが、今後、交渉・解決に行政各分野のご指導、援助についてお願いしました。

○環濠の一部を『鯉の池』化に！

寺内町を巡る環濠が、ほぼ完全な形で残っているのは全国でも珍しいとのことですが、現状は生活排水が流れ込み、水流も極端に少なく、私の小学校低学年の頃、見掛けたフナ、ナマズ、ザリガニもまったく住めなくなっています。毛無川、志登茂川の水を取り込むことも難しいらしく、そこで環濠の一部を仕切って湧水で清流化し、『鯉の池』として活用出来ようしくお願い致します。

尚、コミュニティバスのルート変更、公民館南側の用水路に人道橋を設置する事について特段の配慮をいただいたお礼を申し上げました。

一身田寺内町まつり3年ぶり開催

一身田寺内町まつり実行委員会　会長　岡　幸男

新型コロナウィルスの影響で、2年間開催できませんでしたが、今年こそと準備を進めています。

この祭りは、27年前に市町村合併前の津市の依頼により街道祭りとして開催されました。手探りの状態で協力して頂ける仲間が集まりやり遂げる事が出来ました。

一回限りの予定でしたが、来年もやろうという意見がまとまり、名称も一身田寺内町まつりと改め、第1回がスタートしました。

令和2年3年と開催できませんでしたが、今回で第24回を開催する予定です。

高田本山中心に栄えてきた一身田も段々と商店が店じまいし寂しい状態になってきました。近隣からの買い回りのお客さんは大型ショッピングモールや中型スーパーマーケットに流れ、個人経営のお店が次々と閉店していきました。

将来を考えれば、日常の買い回りの商売から観光客相手の商店街に生まれ変わることが今一度一身田を活気溢れる町になる方向だと考え、高田本山を中心に町並みや雰囲気を発信する一つの手段とこの祭りを位置づけています。

メインはステージで、一身田中学校の生徒会、津西高の放送部、極津がステージの企画運営をしています。

千人豚汁も目玉でしたが、感染予防の観点から今年は残念ながら実施を断念しました。

国宝となった如来堂と御影堂、ほっとする町並み、景観整備された道路、少しずつですが昔の町並みを取り戻すルールも出来ました。

この祭りを続けてきた事から、行政も注目しています。

3年ぶり開催、新型コロナウイルスの影響、スタッフの高齢化など不安要素はありますが、来て頂いた方に一日一身田寺内町でゆっくり楽しんで頂けたらと思っています。是非、一身田寺内町まつりに参加して頂き、昔の一身田を思い、一身田の将来を考える時間をゆっくり味わって下さい。

一身田中学校ブラスバンド部の演奏で開会

何とかならないか！！！

一身田地区体育振興会　理事長　村田定利

一身田大古曽地区では昔から有名な事故多発交差点（旧農協角）

特に東西双方から来る車と小学校東門からJR踏切に向かう車同士の衝突事故が多発しています。

毎日7時50分頃は、南側にある踏切を早く渡ろうとする通勤車両で危険が一杯。通学路にもなっていてPTAの方々の神経を使う時間帯にもなる見通しの悪い箇所です。

その対応策として『交差路面に認識しやすい塗装』とカーブミラーの再点検を要望します。

一身田地区体育振興会　今後の予定

歩こう会：令和4年11月27日（日曜日）

予備日

12月4日（日曜日）

コースは未定。

月初めの回覧でお知らせします。

地区社協会長として要望したこと

一身田地区社会福祉協議会　会長　望木幹雄

私は、①寺内町の無電柱化、②環濠の美化（水質も）、③一小運動場の部分緑化、④民生・児童委員の確保難、⑤狭隘道路の改良等を要望しました。

一身田は「国宝と環濠のある寺内町」が観光の目玉になっておりますが、現状の環濠ではとても自慢になりません。直ぐに結論の出せる事柄ではありませんが、寺内町全体の美化と安全で、住んで楽しい町にするため、これからも地元の衆知を結集して提案を行っていきたいと考えております。今以上に皆様方のお力添えを頂きたく宜

派遣をお願いしました。

昭和40年頃　高田本山で　細川　隆氏　所蔵

第2回笑顔の写真展　作品募集

受付場所　寺内町の館 電話233－6666

写真の持ち込み、USB、メールで受付

E-メール　jinaicho-yakata@outlook.jp

消えかかっている白線とても気になります

交通安全推進協議会　会長　西山徳造

私は毎日何回となく救急車のサイレンの音を聞き事故を少しでも少なくしたいと考えております。

道路上の白い白線が削れて黒い所が特に気になります。昼間も気になりますが、夜間は余計に気になります。

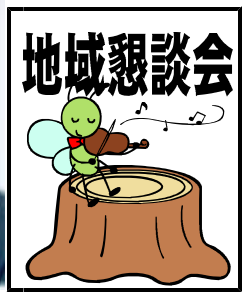
事故を少しでも減らすには何時も綺麗な白い白線で目立つようにと修復をお願いしました。

街路灯問題、市長へお願い

一身田商工振興会　会長　中川隆功

平成9年に設置された一身田町内の55基の広告街路灯は現在、管理は商工振興会で行っており、電気代やメンテナンスなどの費用は所有者に負担いただいております。廃業などにより現在、個人商店で所有は24基に減少し、残りの30基余りは自治会や高田本山等に負担をお願いしています。設置後25年を経過し、老朽化による危険性に加えて電気代の急激な高騰、更なる所有者減少予測などから、今後は撤去の上、寺内町の景観に即した形での防犯灯として再整備をできればと考えており、市の担当部署への指導と補助をお願いしました。

裏面に続く



一身田で60歳以上が4，044人、後期高齢者が2，158人となり、100歳以上は7人です。

地域懇談会で取り上げた老人会からの発言

一身田地区老人クラブ連合会長　鈴木良次

「人生100年時代」を支えるのは健康寿命が伸びた結果です。健康寿命を伸ばすカギはフレイル(虚弱体質)予防です。その礎は「栄養」「運動」他に「社会参加」が重要だと高齢社会総合研究機構が指摘しています。

「社会参加」とは「人のつながり」です。ボランティア、趣味、サークル活動、医療介護情報、食事会を通じて「社会性の維持」を挙げています。

人生の3大不安は「病気」「孤独」「貧困」だと日本生活習慣病予防協会が指摘。

「孤立」している人はうつ病、狭心症、糖尿病、認知症等のリスクがある。

コロナ禍で「あれも中止」「これも中止」で足腰も弱り、先の見えない不安から「つながり」「関り」場所が乏しい。

よって、生活支援に公的機関の高度な「健康相談窓口」一覧表の一身田バージョン版を作成中です。

そこで感じたことは、今後の行政で、老人の健康、救急、暮らしに関わる「一括総合窓口」が無く、縦割り行政で他の組織との横の連携を深めて欲しいと発言しました。

寺内町整備推進委員会から報告します

会長　中西万喜夫

当会は、町の景観を見守る目的で、平成二十六年七月に津市景観計画の重要地区、一身田に設立されました。ホッとするに一身田に表現された、古き歴史的資源が残る景観を、住まわれる街の皆さまと共に守っていきたい。と考えています。

先般行われた地域懇談会にて、代表し三項目の要望を申し上げました

＊毛無川の通学路に見られる亀裂と、護岸の破損状態の見回りと、早期修復工事です。車両は通行しませんが、雨水が浸み込み空洞が生じれば、陥没の恐れがあります。

＊専修寺本山前の電柱の、地中化工事です。電柱は災害時には、家屋の損壊、電線の垂れ下がりによる感電、緊急車両等の通行の妨げが懸念されます。また景観上にも望ましくありません。

＊専修寺西側環濠にコイが泳ぐ貯水池が有れば、駐車場を出て一番に目に入ります。

下水道が利用されれば、雨水だけの流れる水路になるでしょう。

私たちの町が、いつまでも大切に皆さまの住み良さ、温かさを維持しつつお寺と共に楽しんでいただける寺内町であるように皆さまと一つの輪になって、今後とも見守っていきたいと考えております。

見守り隊のメンバーを紹介します。中西万喜夫、望木幹雄、田村憲二、中川隆功、岡野勇治、村田定利、岡　幸男、西山徳造、岡本博和

（敬称略）

一小PTAから五つの要望

一身田小学校からは地域懇談会において五つの要望をお願いしました。一つ目は、一小南運動場の排水工事を3年前に行った。その結果、車の駐車台数が大幅に減り、学校行事や地域行事で支障を来している。以前の駐車台数が確保できるように再工事をお願いしたい。二つ目は、運動場南西側の屋外トイレは、今や歴史的建造物？！。和式で、しかも男女共用使用。子ども達だけでなく地域の方々も使用している。一時も早く改修して欲しい。三つ目は、体育館入り口付近に照明スイッチを増設して欲しい。四つ目は、体育館の雨漏り早く改修して欲しい。五つ目は、一小の一階の教室に網戸を設置して欲しい。一小は蚊が多く蚊に刺される子どもが多い。早急に網戸の設置をお願いします。

みんなで祝おうに一身田しあわせ婚

一身田の魅力発信事業として2013年にスタートしました。コロナ禍での中止を経て3年ぶりの再開となります。

今年のカップルは、百五銀行一身田支店にお勤めの中西さんです。お二人とも津市出身で、地元一身田で皆様と接する機会も多い方です。お二人の新しい門出を町のみんなで祝福しましょう！

一身田しあわせ和婚11月13日（日）開催。（寺内町まつりと同時開催）

午前中は、高田本山にて仏式結婚式を行い、お参りの後、新婦の十二単姿を披露。午後は人力車に乗って町内を一周し、ゴール地点の高田会館では祝い餅の振る舞いなど。行事開の資金のため、クラウドファンディングを実施しております。皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

クラウドファンディング「キャンプファイヤー」のサイトにて「一身田」で検索してください。または、下記のQRコードをご利用ください。

今回の主役の中西さん夫妻

藤堂藩お抱え絵師によって描かれた丹頂鶴

シリーズ

本山をもっと知ろう！

対面所

高田本山　専修寺

広報課　玉野　章法

皆さんは、高田本山にある対面所という重要文化財の建物をご存知でしょうか？

対面所とは、その名の通り大正元年までは御法主が檀信徒に接見なさる場所でした。全体では畳361枚を敷く大広間です。

正面の壁面には、大きな松の樹の根元近く、金銀砂子の州浜に、一番いの丹頂鶴が遊んでいる様子が描かれ、左上方に真っ赤な太陽が雲間から顔を出しているという素晴らしい瑞祥の絵です。

右下隅に「紀宗浄（きのそうじょう）」の落款があるので、藤堂藩お抱え絵師だった曽谷宗浄（そたに）が描いたものです。

その絵の向かって右側は、帳台構え(武者隠し)風の襖で、その黒漆と金色の輝きが、上段の間を豪華にしています。

一般に本山格の寺院のなかで、御対面所というような施設を別に持っているのはそう多くはないようです。真言宗、天台宗はもちろん禅宗寺院にもありません。

それはつまり、檀信徒とのつながりを大事にする真宗教団ならではの施設と言えるでしょう。今年の寺内町まつりでは御対面所での呈茶を予定しております。

（つづく）

こころ温まる映画上映

かみさまとのやくそく

赤ちゃんたちからのメッセージ

時　11月6日(日)　開場13時

所　高田会館大ホール

この映画の中で、お母さんのお腹の中の記憶を持つ子供達が、口々に「お母さんを選んで生まれてきた」と話します。

私達はお母さんだけじゃなく、国や性別、障害までも選び、生まれてきます。

当日は脳に障害を持って生まれてきた、私のお友達の娘さん、ノアちゃんから直接聞いた、「私生まれてきた理由」のお話しと、プノセラピストである私が、お腹の赤ちゃんとお母さんを催眠により胎話させている素敵なお話しをさせて頂きます。子を持つ親やおじいちゃんおばあちゃんまで誰にでも見て欲しい映画です。

詳しくは　奥野潤子☎090－1274－2817

チケット購入は左記のQRコードよりアクセスできます。

高田本山の特別法要　準備　着々と進む

高田本山では、令和5年5月21日～28日、特別法要として、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・真慧上人500年忌・聖徳太子1400年忌奉讃法会をお勤めいたします。聖人誕生以来850年、また、教行信証を著わされて800年になります。

高田派第10世真慧上人は関東からこの一身田の地に本山を移される礎を築かれた方であり、聖徳太子は和讃にもある通り聖人が尊敬された方であります。

この法会にあたりましては、稚児練り、講演会、その他イベント等を企画しておりますので近隣の皆様には是非ともご参詣頂きますようご案内申し上げます。

またこの法会の記念事業として新宝物館を建設

一身田団地南区自治会

消火器訓練　初の試み

一身田団地南区自治会(会長　西垣戸正夫氏96世帯)は、9月25日団地東公園の草取り、消火器取扱い訓練を行った。

この日、津北消防署職員の中川氏を講師に招き、最近の火災状況や水の入った練習用の消火器を使って体験訓練を行った。消火器の取扱いは①黄色のピンを抜く②ホースを火元に向ける③取ってのレバーを握りこむ、の操作順でこの日の参加者70人中15人が体験。口々に「思った以上に簡単だった」と話された。

西垣戸会長は「今後も協働で継続してやっていきたい」と話された。

消火器訓練をする地域の方々